

## 令和6(2024)年度 前期授業評価アンケート分析報告書

### 1. 概要

2024年度前期授業評価アンケートについて、主要項目の代表値を前年度の結果と比較した。また、前回の報告で履修者数による傾向の違いが見られたため、「全科目」、「履修者数20人以上の科目」、「履修者数20人未満の科目」に分けて相関分析を行った。

なお、今回から授業評価アンケートの対象科目からゼミナールが除外された。また、本報告の目的が科目ごとの満足度や難易度の傾向を把握することであることや、生データ（学生の個別回答）では履修者数の多い科目の影響が大きくなることから、科目ごとの平均値を用いた分析を行った。

本分析から、(1)ゼミナールが学習時間の維持に寄与していること、(2)満足度は興味関心、資料のわかりやすさ、指示の適切性、双方向性と正の相関を持つこと、(3)満足度は難易度と負の相関を持つこと、(4)難易度は資料のわかりやすさと関連していること、が示された。

#### ● 分析結果

<主要項目の平均値と中央値（表1）>

- ・ 履修者数 (59.13) は、前年度前期に比べて約19名増加した。
- ・ 回答率 (0.500) は、前年度前期より約12ポイント減少した。
- ・ 学習時間 (45.6) は、前年度前期より約8分、前年度後期より約14分短くなった。
- ・ 興味関心 (4.122)、難易度 (3.730)、満足度 (4.090) は、前年度前期とほぼ同水準であった。

<授業満足度との相関関係（表2～4）>

「表2 全科目の相関行列」、「表3 履修者数20人以上の科目の相関行列」、「表4 履修者数20人未満の科目の相関行列」から、以下のことが確認できる。

- ・ 表2～4から、満足度との相関が見られる項目は次の通りである。

中程度～強い正の相関	弱～中程度の負の相関
興味関心・資料のわかりやすさ・ 指示の適切性・双方向性	難易度

- ・ 表2および表3から、満足度との相関係数が高い順に、興味関心 (0.860、0.883)、資料のわかりやすさ (0.802、0.869)、指示の適切性 (0.775、0.861)であり<sup>1</sup>、前年度前期と同様の傾向が見られた。
- ・ 表4から、満足度との相関係数が最も高いのは興味関心 (0.756)、次いで双方向性(0.612)であった。
- ・ いずれの表においても、満足度と難易度の間には、弱～中程度の負の相関が見られた。
- ・ いずれの表においても、難易度と資料のわかりやすさの間には、弱～中程度の負の相関が見られた。

#### ● 考察

<sup>1</sup> 相関係数の評価はギルフォードの規則に従う。0.2未満：相関なし、0.2～0.4：弱い相関、0.4～0.7：中程度の相関、0.7以上：強い相関。

#### <主要項目の平均値と中央値（表1）>

- ・ 履修者数の増加、回答率の減少、および学習時間の減少については、アンケート対象からゼミナールが除外されたことが影響していると考えられる。
  - 例えば、2023年度前期のアンケートでは、ゼミナールの学習時間の平均値は66.8分、ゼミナール以外の科目は45.6分であった。ゼミナールは、学習時間の維持に寄与していたと推測される。
  - 表1には含まれないが、履修者数20人以上の科目の満足度の平均値は3.98、履修者数20人未満の科目は4.34であり、履修者数が少ない科目ほど満足度が高い傾向が見られた。

#### <授業満足度との相関関係（表2～4）>

- ・ 興味関心、資料のわかりやすさ、指示の適切性、双方向性は、満足度との強い正の相関を持つため、これらを意識した授業運営が重要である。
- ・ 満足度と難易度には弱～中程度の負の相関があり、難易度が満足度に影響している可能性がある。
  - 特に履修者数の多い科目では、満足度と難易度は中程度の負の相関がある。履修者数の多い科目では、時間割の都合など消極的な理由で履修する学生の割合が高くなる可能性があり、難易度が満足度に影響しやすいことが考えられる。
- ・ 難易度と資料のわかりやすさには弱～中程度の負の相関があるため、難易度が単に授業内容の高度さを反映しているだけではなく、資料のわかりやすさの影響を受けている可能性がある。
  - 特に履修者数の少ない科目では、難易度と資料のわかりやすさは中程度の負の相関がある。
- ・ 履修者数の少ない科目では、満足度と正の相関を持つ項目として双方向性が2番目に高く、履修者数の多い科目とは若干傾向が異なる。
  - 少人数の科目では、積極的に履修した学生の割合が多い可能性があり、それが教員とのコミュニケーションの評価につながることを考えられる。

## 2. 実施状況

2024年度前期授業評価アンケートは次の方法で実施された。

- 実施期間・収集方法
    - ・ 令和6年7月8日（月）～7月19日（金）
    - ・ 後期・通年開講科目（集中講義を含む）について実施
    - ・ 授業時間の冒頭に、in Campusのアンケート機能を使用して実施
- ※アンケートの回答方法は、2022年度からin Campusで実施している。  
※2024年度からゼミナール科目が除外された。

## 3. サンプルの状況

履修者数がゼロだった科目を除いた176科目からアンケートを回収した。これらの科目から最終的に回収した回答数は4,482件であった。

#### 4. 主要項目の平均値と中央値

主要項目の平均値と中央値の推移を表1に示す。この表は、例年「科目ごとの平均値」を集計しており、今回も同様である。例えば、興味関心の平均であれば、各科目の興味関心に対する回答の平均値を合計し、開講科目数（179）で除している。

表1 主要項目の推移

年度	履修者数		回答率		興味関心		難易度		満足度		学習時間	
	平均	中央値	平均	中央値	平均	中央値	平均	中央値	平均	中央値	平均	中央値
2021前	37.79	15	0.783	0.830	4.140	4.140	3.750	3.770	4.190	4.210	42.11	38.26
2021後	37.21	13	0.758	0.786	4.170	4.160	3.780	3.790	4.190	4.180	48.06	43.88
2022前	37.60	15	0.603	0.579	4.138	4.116	3.631	3.656	4.141	4.143	59.53	53.33
2022後	37.07	15	0.560	0.545	4.157	4.167	3.731	3.727	4.177	4.185	60.68	56.46
2023前	39.89	15	0.616	0.618	4.119	4.167	3.697	3.700	4.143	4.125	53.38	48.75
2023後	37.16	14	0.485	0.500	4.187	4.182	3.710	3.714	4.201	4.231	59.46	50.00
2024前	59.13	35	0.500	0.511	4.122	4.140	3.730	3.720	4.090	4.130	45.60	42.40

注) 学習時間は、アンケートの「課題取り組み時間 (Q10相当)」で算出している。「180分以上」は180、「0分」は0とし、それ以外は真ん中の数値 (例えば、0分以上30分未満は15分で計算)を用いている。

#### 5. 授業満足度との相関関係

「全科目」、「履修者数20人以上の科目」、および「履修者数20人未満の科目」に対する相関行列を表2～4に示す。相関行列については、2022年度までは生データを用いていたが、昨年度は生データと科目ごとの平均値の両方を使用し、今回は科目ごとの平均値のみを使用している。

表2 全科目の相関行列

	Q02	Q03	Q04	Q05	Q06	Q07	Q08	Q09	Q10	Q11
興味関心 Q02	1.000	-0.226	0.676	0.750	0.254	0.714	-0.213	0.199	0.137	0.860
難易度 Q03	-0.226	1.000	-0.157	-0.127	0.013	-0.349	0.345	0.504	0.338	-0.321
指示の適切性 Q04	0.676	-0.157	1.000	0.735	0.531	0.774	-0.266	0.112	0.074	0.775
双方向性 Q05	0.750	-0.127	0.735	1.000	0.309	0.724	-0.099	0.170	0.158	0.755
in Campusの活用頻度 Q06	0.254	0.013	0.531	0.309	1.000	0.468	-0.080	0.118	0.002	0.365
資料のわかりやすさ Q07	0.714	-0.349	0.774	0.724	0.468	1.000	-0.282	-0.007	0.027	0.802
課題分量 Q08	-0.213	0.345	-0.266	-0.099	-0.080	-0.282	1.000	0.409	0.583	-0.246
予習・復習 Q09	0.199	0.504	0.112	0.170	0.118	-0.007	0.409	1.000	0.678	0.097
課題時間 Q10	0.137	0.338	0.074	0.158	0.002	0.027	0.583	0.678	1.000	0.032
満足度 Q11	0.860	-0.321	0.775	0.755	0.365	0.802	-0.246	0.097	0.032	1.000

注) サンプルサイズ 179。

表3 履修者数20人以上の科目の相関行列

	Q02	Q03	Q04	Q05	Q06	Q07	Q08	Q09	Q10	Q11
興味関心 Q02	1.000	-0.427	0.794	0.705	0.431	0.805	-0.276	-0.014	-0.049	0.883
難易度 Q03	-0.427	1.000	-0.243	-0.228	-0.070	-0.324	0.285	0.360	0.297	-0.467
指示の適切性 Q04	0.794	-0.243	1.000	0.801	0.679	0.877	-0.238	0.087	0.055	0.861
双方向性 Q05	0.705	-0.228	0.801	1.000	0.475	0.724	-0.022	0.079	0.053	0.755
in Campusの活用頻度 Q06	0.431	-0.070	0.679	0.475	1.000	0.722	0.016	0.278	0.269	0.512
資料のわかりやすさ Q07	0.805	-0.324	0.877	0.724	0.722	1.000	-0.214	0.104	0.036	0.869
課題分量 Q08	-0.276	0.285	-0.238	-0.022	0.016	-0.214	1.000	0.404	0.583	-0.314
予習・復習 Q09	-0.014	0.360	0.087	0.079	0.278	0.104	0.404	1.000	0.779	-0.073
課題時間 Q10	-0.049	0.297	0.055	0.053	0.269	0.036	0.583	0.779	1.000	-0.093
満足度 Q11	0.883	-0.467	0.861	0.755	0.512	0.869	-0.314	-0.073	-0.093	1.000

注) サンプルサイズ 123。

表4 履修者数20人未満の科目の相関行列

	Q02	Q03	Q04	Q05	Q06	Q07	Q08	Q09	Q10	Q11
興味関心 Q02	1.000	-0.147	0.351	0.689	0.027	0.423	-0.026	0.182	0.148	0.756
難易度 Q03	-0.147	1.000	-0.134	-0.139	0.096	-0.499	0.426	0.578	0.354	-0.299
指示の適切性 Q04	0.351	-0.134	1.000	0.500	0.328	0.497	-0.250	0.000	-0.027	0.515
双方向性 Q05	0.689	-0.139	0.500	1.000	0.087	0.611	-0.087	0.019	0.091	0.612
in Campusの活用頻度 Q06	0.027	0.096	0.328	0.087	1.000	0.076	-0.221	0.042	-0.235	0.158
資料のわかりやすさ Q07	0.423	-0.499	0.497	0.611	0.076	1.000	-0.327	-0.302	-0.139	0.577
課題分量 Q08	-0.026	0.426	-0.250	-0.087	-0.221	-0.327	1.000	0.558	0.702	-0.054
予習・復習 Q09	0.182	0.578	0.000	0.019	0.042	-0.302	0.558	1.000	0.614	0.055
課題時間 Q10	0.148	0.354	-0.027	0.091	-0.235	-0.139	0.702	0.614	1.000	-0.009
満足度 Q11	0.756	-0.299	0.515	0.612	0.158	0.577	-0.054	0.055	-0.009	1.000

注) サンプルサイズ 56。

## 6. 結論

本分析から、ゼミナールが学習時間の維持に寄与していたこと、また、満足度が興味関心、資料のわかりやすさ、指示の適切性、双方向性と正の相関を持つことが確認された。一方で、満足度は難易度の影響を受ける傾向があり、難易度は資料のわかりやすさとも関連している可能性が示唆された。さらに、履修者数が多い科目では、満足度と難易度の負の相関がより強くなるなど、履修者数による傾向の違いが見られた。

## 7. 今後の課題

これまでの授業評価アンケート分析では、「Q1 この授業を履修した理由」に基づく分析は行っていない。しかし、積極的な理由で受講した学生とそうでない学生では、難易度が満足度に与える影響に違いがあることなども考えられる。履修動機を考慮した分析が今後の課題である。

以上